

サイエンスコミュニケーションをめぐって  
「社会のための科学」の位置とところ

論点

1. サイエンスコミュニケーションの現状；社会のための科学とは？
2. 誰が、誰に対し、何を、どのような目的と効果を求めて？ 科学教育とのかかわり
3. 基礎科学と応用科学；研究・データ・論文 開発・技術・もの・効果・安全性

現状

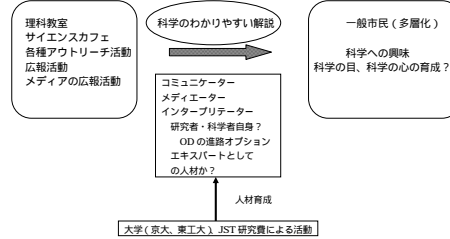
1. サイエンスコミュニケーションの現状

- 1) 子供のための理科教室；理科離れ、理科嫌いの解消と科学技術立国が目論見
- 2) サイエンスカフェ； 日本学術会議主催、全国 14 都市、21 箇所で開催中
- 3) 研究機関、学会のアウトリーチ活動  
理化学研究所(神戸 CDB 他)、国立天文台等、日本化学会等  
日本科学未来館のような Science Museum の設置
- 4) 大学における関連コースの設置  
a. 科学技術振興調整費による人材育成コース；東大、北大、早稲田大  
東大(サイエンスインタープリター)  
北大(サイエンスコミュニケーター)  
早稲田大(サイエンスメディアエーター) サイエンスライターも養成  
科学をわかりやすく解説する 生命倫理関連、医療関連  
三大学とも趣旨はほぼ同じだが、呼称は異なる  
b. 研究組織(正課科目提供)として大学内に設置  
阪大コミュニケーションデザインセンター  
京大大学院生命科学研究所 生命文化学講座  
御茶ノ水女子大、和歌山大学等
- 5) 研究費の創設  
JST 研究者情報発信モデル事業(H.17.12 件、H.18.13 件)東工大大学院の総合科目  
JST 社会技術研究センター (RISTEX) 21 世紀の科学技術リテラシー (H.17. 6 件)

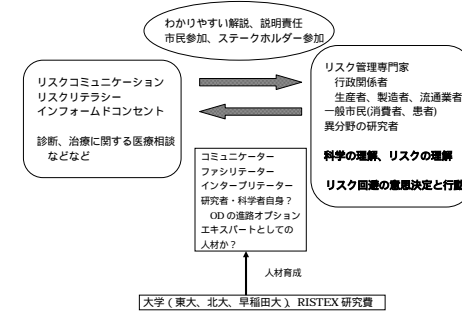
- 6) 大型研究費における研究内容、成果に関するアウトリーチ活動の義務化  
科学技術振興調整費のうち、重要課題解決型研究については、経費の3%をアウトリーチ活動に使用することが義務化
- 7) 医療におけるインフォームドコンセント、診断、治療に関する医療相談、遺伝子相談等  
リスクコミュニケーション、リスクリテラシー活動；  
環境や食品安全における行政との連携活動、病院での活動等

2. 誰が、誰に対し、何を、どのような目的と効果を求めて？ 科学教育とのかかわり

(1) - (6) まで



(7) では・・・



3. 基礎科学と応用科学

日本では、第三期科学技術基本計画

研究・データ・論文 開発・技術・もの・効果・安全性

研究者、研究機関の多様性と多層性  
科学技術と社会技術  
専門性とは？ 市民の「とらえかた」、社会・市民と科学教育